

第14回北海道新幹線倶知安駅周辺整備推進委員会 開催報告

1. 日時

2024年2月1日（木）10:00～12:00

2. 場所

倶知安町役場2階 会議室



3. 議事

(1) 東西口広場機能について… 資料1

(倶知安町 植田主幹)

- ・資料1について説明

(木村委員長)

- ・東口広場の変更点について異論はないか。

(全員)

- ・異議なし。

(柏谷委員)

- ・平面駐車場の除雪費とチップの融雪費の金額の違いについて、前回委員会で議論したのか。

(倶知安町 植田主幹)

- ・除雪費については示していない。木質チップボイラーによる融雪費について各検討ケースの整備費用（超概算）を示している。

(木村委員長)

- ・現段階では、木質チップボイラーによる融雪で進める認識で良いか。

(倶知安町 植田主幹)

- ・町としては、駅前の融雪に関しては、木質チップボイラーに限ったものとは考えていない。別途町で検討を行っている町内プールにおいて、再生可能エネルギーがテーマとなっていることから、今回の資料では、木質チップボイラーを取り上げている。

- ・木質チップボイラーに限らず、地熱やガスといった再生可能エネルギーを含めて、来年度以降も引き続き検討していきたい。

(木村委員長)

- ・推進委員会において、検討を進めるイメージか。

(倶知安町 植田主幹)

- ・融雪に関しては、本委員会での議論と合わせて町全体の議論としても取り組んでいきたい。

(木村委員長)

- ・今回の委員会では木質チップボイラーによる融雪ということだが、今後、他の再生可能エネルギーも検討に上がってくるかもしれないということで理解した。今後、ランニングコストについても検討は必要だと思う。

(吉田副委員長)

- ・木質チップボイラーの融雪は、西口のみか。東口は含んでいないのか。

(倶知安町 植田主幹)

- ・今回の整備費は西口のみ。東口及び駅舎の費用は含んでいない。

(倶知安町 西口主幹)

- ・東口の融雪検討も別途進めており、今後報告したいと思っている。

(木村委員長)

- ・木質チップボイラーであれば10億超える。東口も含める場合、さらに整備費がかかる。

- ・今日の委員会では、木質チップボイラーによる融雪方法を議論したいのではなく、平面駐車場と立体駐車場の在り方について議論したい。

(柏谷委員)

- ・検討ケース④を推奨する。除雪車と排雪のダンプ車の取り合いが起きている現状を踏まえると、新幹線開業後には、屋根がないと駐車場の台数確保は難しいことから、検討ケース④が現実的かと思う。

(岩佐委員)

- ・同じく検討ケース④がいいと思っている。費用面でも大きな差がないことと、駐車場の台数確保の点で有効かと考えた。

(齊藤委員)

- ・昨年度まで議論していた立体駐車場に対するこだわりが個人的には強く、今回の検討ケースに含まれておらず残念ではある。

- ・立体駐車場による雪の弊害を極力排除し、かつ、緑化やこれからの時代に向けた活用を考えると検討ケース④がいい。融雪に対する考え方が議題に上がってきている点を評価している。

(倶知安町 西口主幹)

- ・昨年検討させていただいた立体駐車場は、冬期の利用を考えた時に屋根が必要というところで検討を進めてきた。昨年度の検討案がなくなったわけではない。今後、融雪を考えた場合、別な使い方も考えられるのではないかと考えており、融雪+駐車場の使い方ということで、今日の委員会に提示させていただいた。

(木村委員長)

- ・昨年度案は生きているということで良いか。

(倶知安町 西口主幹)

- ・木質チップボイラーの整備費が現実的ではないように思っている。ただ、イニシャルだけではなくランニングコストを含めて検討していきたい。

(木村委員長)

- ・最終的にはどのような考えで西口駐車場の検討を決めていくのか。

(倶知安町 西口主幹)

- ・最終的にはコスト面を踏まえて現実的な案を考えていくことになるかと思う。

(窪田委員)

- ・検討ケース①と②が現実的ではないというところで、検討ケース③または④が考えられるというのが前回委員会での意見だったかと思うが、利用者目線でいくと、検討ケース④の立体駐車場がいい。立体駐車場とすることで、冬季でも240台駐車できるというのは、自動車を利用する方にとって安心感につながると思う。
- ・検討ケース③の場合、一部に屋根がかかっている場合だと、雪が吹き込んでくることを考慮し、壁の整備なども必要になる。そう考えると、小さいスペースに屋根付きは使い勝手が良くないように思った。

(波方委員)

- ・前回から立体駐車場がいいと思っており、日帰りの駐車だけではなく長期停車する利用者のことを考えると、一部分除雪できないことで周りへの影響も大きいと思う。利用者目線でも、立体駐車場がいいと思う。コスト面は、整備費だけではなくランニングコストも一緒に考えていく必要がある。最終的には、立体駐車場が優位になってくるように感じている。
- ・以上のことから、今回の検討ケース④か、昨年度検討した立体駐車場案がいいと思っている。

(峠ヶ委員)

- ・利用者目線で考えると立体駐車場は大前提ということで、本委員会では一致していると思っている。あとは、立体駐車場をどういう形状にするかという点。今後、コスト面を含めて、立体駐車場の形状も検討していけたらと思っている。

(佐藤委員)

- ・皆さんの意見と同じ。今回の資料にあるものは配置イメージであるため、実際の立体駐車場の大きさは変わると思う。あとは、最初の段階で200台規模の立体駐車場を作ったほうが良いのか、あとで増築できるようにした方が良いのかという議論も必要。
- ・例えば、150台分の立体駐車場を整備し、運用状況を確認した後、収益を見込んだ増設を行うということも検討してはどうか。

(吉田副委員長)

- ・立体駐車場はありきだと思う。ロータリーを複層化して2階部分を駐車場、第1駐車場の一部を平面とした場合に平面駐車場の部分を木質チップボイラーで融雪するといったことが考えられる。このように、立体駐車場の形状については、時間をかけて検討をしてもいい

いと思う。

(木村委員長)

- ・青柳委員は今来られたばかりだが、駐車場に対して意見があればお聞かせいただきたい。

(青柳委員)

- ・立体駐車場はあった上で、一部分を融雪にする案は、コスト面においてもいいかと思う。

(木村委員長)

- ・前回の委員会で立体駐車場案を示されて以降、飯山駅と新高岡駅を実際に利用して状況を確認した。やはり冬場になると、優先的に立体駐車場から埋まる状況。
- ・飯山駅の立体駐車場は3層なのだが、1層目はほぼ満車。意外なのは、冬期シーズン長期停車する車が結構いること。車を2台持っている人や、通勤でしか車を利用しない人がずっと停めている傾向があり、違う使い方もあることがわかった。
- ・新高岡駅は駅に近い場所と駅から少し離れた場所の2か所に立体駐車場がある。駅に近い立体駐車場は確か3層なのだが、真冬になると駐車料金が高くても利用する傾向にある。駐車場の利用状況としては、駅に近い立体駐車場がまず埋まり、その次に離れた場所の立体駐車場、最後に平面駐車場に車が止まる模様。このことから、利用者は立体駐車場を使用する傾向にあった。
- ・今2つの駅の事例を挙げさせていただいたが、倶知安駅は飯山駅に近いぐらいの豪雪地帯なので、立体駐車場から埋まるのではないかと思う。委員の意見は一致しているかと思うので、融雪装置の関係性や駅舎から一体となっているような立体駐車場の可能性を含め、コスト面と機能面と併せて、事務局に提案していただきたい。

(倶知安町 西口主幹)

- ・昨年検討してきた結果も踏まえ、資料に掲載させていただきたい。
- ・木質チップボイラーの整備費について誤りがあったので訂正させていただく。修正した資料は改めて提示するが、口頭で報告させていただく。検討ケース①は4.3億円、②は3.8億円、③は4.2億円、④は3.7億円。

(齊藤委員)

- ・金額の変更について了承した。備考欄の数値に誤りはないのか。

(ドーコン 朝倉)

- ・備考欄に誤りはないが、計算方法に誤りがあった。ボイラーの整備にのみを10倍とするところを、全体費用を10倍としまっていた。重ねてお詫び申し上げる。

(齊藤委員)

- ・イニシャルコストだけでなく、運営費についても目安でいいので示してほしい。

(波方委員)

- ・融雪の場合、地面に積もった雪は溶けると思うが、車に積もっていて落とした雪はすぐには溶けず、路面がぼこぼこになり、滑って転ぶ人もいるのかと考えられた。そう考えても、立体駐車場がいいかと思った。

(木村委員長)

- ・一週間程度車を止めていた場合、相当な雪の量を落とすことになるかと思う。落とした時に融雪装置で消えるのかどうか等、機能面も考える必要はある。

(柏谷委員)

- ・飯山駅から立体駐車場までのキャノピーの整備経緯を教えてください。

(木村委員長)

- ・飯山駅は、公共交通が出入りする駅前広場は歩行者動線上にキャノピーを整備しており、ここは屋根があるだけで、風が横から入ってくる形となっている。立体駐車場がある方の歩行者動線上のキャノピーは、冬季は雪が入らないような壁ができるようになっている。ここは、駐車場の利用しかないので、公共交通機関側とは異なり、路面の融雪対策を実施していないため、雪の吹きだまり対策として、はめ込み式の壁をつくっている。年末の状況を見た限り、壁がないと利用者は歩けないだろうと思った。

(柏谷委員)

- ・その視点で見た時に、検討ケース③と④は屋根だけで大丈夫か感覚を聞きたい。

(木村委員長)

- ・送迎者用のロータリーをどう使うかによる。利用頻度が少ない場合は、飯山駅のようなキャノピー+壁でいいかと思うが、西口の機能を考えると路面の融雪対策を実施した方がいいように思う。
- ・倶知安町の方々は雪に慣れており、どこが吹きだまりになるか想像つくかと思う。飯山駅も雪には慣れているはずだが、都市施設を含めて、雪が降ってから工事をやり直した部分がある。駐車場に限らず都市施設も含めて、雪対策は色々な想定の中で議論を進めていくべきかと思う。

(吉田副委員長)

- ・バスの運転手不足解消の案として、観光協会の中では、駅からスキー場までゴンドラで運ぶ案が出てきている。仮にゴンドラの駅を倶知安駅に作る場合、個人的には西口がいいと思っており、ゴンドラの駅の場所も視野に入れておいた方がいいかと個人の意見として思っている。
- ・事務局に確認したいが、西口から河川敷までの間にスペースはあるか。

(倶知安町 植田主幹)

- ・現時点の想定では、ゴンドラ整備の面積はないように思う。

(佐藤委員)

- ・体育館側と新幹線の線路の間は空いているのではないかと。

(木村委員長)

- ・上記に加え、第2駐車場と線路の間も空いているかもしれない。事務局、いかがか。

(倶知安町 植田主幹)

- ・町有地やJR敷地のエリアとなる。今後、ゴンドラやロープウェイの検討が進むようであれば、その点についても活用可能な場所について検討が必要かと思う。

(木村委員長)

- ・苫小牧では自動運転の試行運転を実施しているので、新幹線開業時には検討の可能性がないわけではないかと思う。

(窪田委員)

- ・検討ケース①～④で駐車台数が異なるかと思う。必要台数については、前に議論したかと

思うが、再度確認したい。

(木村委員長)

- ・台数の根拠も次回の委員会資料に提示してほしい。

(倶知安町 植田主幹)

- ・検討ケース④は 240 台、他のケースは 200 台以上の確保という条件で検討している。

(木村委員長)

- ・単純に考えた場合、検討ケース④の立体駐車場で 240 台ならば、平面駐車場の停車台数は 120 台ということか。

(ドーコン 朝倉)

- ・おおまかに言うと、第 1 駐車場が 150 台、第 2 駐車場が 50 台くらいで、検討ケース①～③ が計 200 台とめられるイメージ。検討ケース④は構造上により 240 台。

(柏谷委員)

- ・検討ケース④は、240 台プラス第 2 駐車場の 50 台となる。整備費を比べるには、台数を揃える必要がある。

(木村委員長)

- ・駐車場台数も踏まえて、再検討していただきたい。

(2) 都市施設機能について… 資料 2

(倶知安町 植田主幹)

- ・資料 2 について説明

(木村委員長)

- ・都市施設の検討は次回も行うが、まずは階段の配置について意見を伺いたい。

(波方委員)

- ・階段のイメージをみるとオープンに見えるが、ユニバーサルデザインの視点で行くと、エレベーターを通路に近い側に、階段を奥にした方がいいのではないか。

(佐藤委員)

- ・高齢者は階段よりエレベーターを使うと思うので、階段の裏に出入口があるのではなくもっと見えやすい方がいいかと思う。

(波方委員)

- ・一番左側の階段は非常階段のイメージか。

(吉田副委員長)

- ・原案の位置が良いと思う。2 階への動線を考えると、階段を使って利用者を上の階層へ誘導させた方がいいと思う。

(倶知安町 植田主幹)

- ・エレベーターと階段の配置については、今の意見を踏まえ、エレベーターの見せ方や動線を含め、検討を進めたい。例えば、エレベーターがガラス張りとなると使い方も変わってくると思う。

(木村委員長)

- ・エレベーターが前面にあると階段が使われにくくなるというのが吉田副委員長の意見だ

と思うので、その点も考慮してほしい。

(倶知安町 植田主幹)

- ・一番左側の階段は、頻繁に一般利用者が使うことを想定していない。一般的な利用者動線としては、中央と駅側の階段を利用するイメージ。

(青柳委員)

- ・エレベーターの入り口を南北ではなく、東側に変更することは可能か。屋上への接続の都合上変更は難しいのか。

(古賀氏)

- ・ないわけではないが、使い勝手の面から今の内容がいいと提案した。

(青柳委員)

- ・2階の展望スペースを考えると、エレベーターを使った方が2階で降りた時に眺望が開けていいのではないかと思った。

(齊藤委員)

- ・P.3 図面の屋上エレベーターの下にある、左から右への矢印の線はなにか。

(倶知安町 植田主幹)

- ・P.15 をご覧いただくとわかるように、スロープを示している。

(波方委員)

- ・これまでの議論で、階段ではなくエスカレーターという案はあったのか。

(倶知安町 植田主幹)

- ・これまでの委員会での議論では階段とエレベーターで議論が進んでおり、規模感からエスカレーターは検討していない。

(青柳委員)

- ・エレベーターの出入口が現在の案でいくなれば、壁に見えなくもない。

(木村委員長)

- ・今のエレベーターの配置でいくなれば、屋上の出口の踊り場と2階の滞在空間にあるテーブルの配置も変わってくるかもしれない。

(窪田委員)

- ・階段があって2階へ抜けた空間をテーマにしたほうが、通路から目を引いていいと思う。物販エリアの明るさや広がりにもつながるように思うので、手前に階段があったほうが良いと思う。
- ・エレベーターの出入口が裏だと見えづらいというのも同意見。
- ・屋上との出口の関係が調整可能なのであれば、そうしてほしい。

(峠ヶ委員)

- ・以前の会議の時に、他の駅の事例をみて、階段が見えるところに設置した方がいいという意見があった。今の案のような折れ階段ならば、表に階段を持ってきた意味がなくなるように思う。であれば、エレベーターを前に持ってきてはどうか。

(倶知安町 植田主幹)

- ・都市施設の面積及び階段を真ん中に配置するという条件を満たすために、折れ階段となった。

- ・2階への回遊性を高めたいという点で、吹き抜けと併せて階段を前にもってくることで、2階への認識を持ってもらえるような仕掛けをできたらと思っている。

(佐藤委員)

- ・階段を3段折から2段折にできないか。

(JR九州コンサルタンツ 古賀)

- ・直階段や2階折についても検討したが、階段の長さが長くなり、その分エレベーターが奥まってしまう。

(木村委員長)

- ・横から見る図はわかるが、正面からはどう見えるのか。

(JR九州コンサルタンツ 古賀)

- ・P.8の内観10が、通路側からみた階段のイメージとなる。

(木村委員長)

- ・これまで検討してきた直階段とする場合、どこかの面積を削る必要があるという理解で良いか。

(JR九州コンサルタンツ 古賀)

- ・その通り。

(岩佐委員)

- ・回遊性の確保や上へ誘導したいというコンセプトを打ち出すのであれば、今の配置ではコンセプトのイメージに合わないと感じた。

(吉田副委員長)

- ・螺旋階段は？

(佐藤委員)

- ・それは難しいと思う。

(齊藤委員)

- ・前回と比較できるような形で示してもらえると、判断しやすくなると思った。
- ・面積は減るかと思うが、階段に関しては、効率よりも以前の案でいけたらいいと思った。階段を前に配置することで、高齢者等には使い勝手が悪くなるかと思うが、サインなどで対応できるかと思った。

(窪田委員)

- ・階段を活かす方法として、直線で幅広案もいいが、スペース的に難しいのが前提であるならば、もう少し幅をとれるならば、踊り場部分を少し広げて中段くらいから眺められることで、階段の魅力付けをできるのではないかと思った。1つの案だけではなく、複数案あってもいいと思った。

(倶知安町 植田主幹)

- ・本日は配置について意見を頂きたかった。階段位置は今の提案とし、真ん中に配置した階段の見せ方については本日の意見を踏まえ、対応可能な範囲で再考したいと思う。

(柏谷委員)

- ・これまでの意見として、駅と都市施設の連続性が確保できるのは1階部分だけの状況で、どう2階部分を意識してもらおうかというところから、都市施設の機能配置を議論してき

た。現在の階段の幅で人を座る人が現れてもいいのか。コワーキングスペースのエリアが出来てきた中で、階段の幅は変えられるものなのか。

(JR九州コンサルタンツ 古賀)

- ・階段幅を広げた場合、2階のスタディスペース幅に影響を及ぼす。どちらを選択されるかによるが、変更できないわけではない。

(柏谷委員)

- ・階段について、柱の都合上、出ていくのは新幹線側ではなくスタディスペース側にはなると思う。P.6内観3を見ると、階段下のスペースは物置ぐらいにしか活用できないか。ここは何もない空間か。

(JR九州コンサルタンツ 古賀)

- ・今は何もない空間としているが、活用することも可能。

(岩佐委員)

- ・今の階段の配置だと、駅利用者が階段に引き込まれるようなものだと感じない。今のデザインは、横から見る分にはきれいだと思うが、入ってきた瞬間に魅せる階段ではない。どこに視点を持ってくるか次第かと思う。

(一木臨時委員)

- ・皆さんがご覧になった北陸新幹線福井駅の例かと思う。当駅は、在来線駅・新幹線駅・都市施設の配置となっており、都市施設の階段は非常に広く、階段に人が溜まってもらえるようなイメージで設計された。このため、1階部分のほとんどのエリアを階段のための部屋とし、機能をもたせられなかった。
- ・もし、倶知安駅でも福井駅と同じようなたまり空間をつくる場合、機能の選択が求められる。どちらを選択されるか、委員会での議論が必要だと思う。

(斉藤委員)

- ・今のような意見を会議の都度、教えていただきたい。それにより、意見の行き違いがなくなるかと思う。

(木村委員長)

- ・駅舎デザインの空間をとるか機能をとるかの議論が必要ということかと思う。これを踏まえ、事務局に案を提示していただいて議論を進めていけたらと思っている。

(峠ヶ委員)

- ・階段だけに注視するのではなく、施設全体を踏まえて検討する必要があると思った。

(倶知安町 植田主幹)

- ・都市施設は今後も議論を進めていきたいと思っている。階段位置は、本日の意見を踏まえ、次回委員会に再提示させていただく。

(岩佐委員)

- ・P.8の内観10がよくわかるかと思う。このような階段であれば、真ん中に配置せず、端にしてもいいかと思う。

(柏谷委員)

- ・それぞれの内観がどこからの視点のものなのか次回は示してほしい。内観9は改札から出たイメージか。

(JR九州コンサルタンツ 古賀)

- ・その通り。

(倶知安町 植田主幹)

- ・次の委員会資料には、平面図に内観の位置を示すようにする。今後、勉強会の開催含め、議論を進めていきたい。

(木村委員長)

- ・本日、都市施設の絵を示してもらったので、トイレの種類や個数、情報発信機能に持たせる機能やバックヤード等について、意見があればまとめていただけたら次の委員会がスムーズに進むかと思う。積雪がある中で、屋上の使い方についても意見をいただけたらと思う。

(3) 駅舎デザインアンケート結果について… 資料3

(倶知安町 植田主幹)

- ・資料3について説明

(木村委員長)

- ・委員会としては、「A案」と進めていいか。

(柏谷委員)

- ・子ども達への説明方法を教えてほしい。デザイン案のみを見せて選んだのか。

(倶知安町 植田主幹)

- ・鉄道・運輸機構からデザイン案のみではなく、イメージを膨らますようなパースを見せたり、中学生においては生徒同士の検討時間も設けてもらった上で回答頂いた。

(柏谷委員)

- ・ガラス張りのメンテナンスに関する懸念点があれば、事例を含め教えていただきたい。

(一木臨時委員)

- ・ガラス面とすることで費用が増えることはないが、近くで見ると汚れが気になると思うので、維持管理するJR北海道にお願いする必要はある。

(木村委員長)

- ・ガラス張りの駅は他にあるのか。

(一木臨時委員)

- ・似たようなイメージだと、青森駅。九州の玉名駅も大きなガラスを使用している。どの部分に費用をかけるかというのはあるが、全国でガラスを使った駅はいくつかある。

(佐藤委員)

- ・全面ガラス張りの駅で、太陽光の反射で運転に支障があるといった問題はあるか。

(一木臨時委員)

- ・駅前広場があった上で道路があるので、通行者や運転者に支障があった話は聞こえてきたことはない。倶知安の場合、駅前に商店街があるので考えた方が良くかと思う。

(吉田副委員長)

- ・ガラスの透過性により、夏期は暑くなるか？

(一木臨時委員)

- ・夏場は温室のようになるが、倶知安の地域特性を考えた場合、本州や九州と比較すると、夏場よりも冬場の熱損出を考える必要がある。日射による熱の流入というよりかは、極端に寒くならないように考える必要がある。駅のコンコースは空調が入らないのだが、倶知安町の場合、都市施設と駅が隣接するうえ、直に外と接することにならないので、寒さがだいぶ緩和されるように思う。

(木村委員長)

- ・飯山駅は夏場暑かった。倶知安駅は空調が入る計画となったので、一木臨時委員のお話しいただいた部分は空調でカバーできるように思う。

(青柳委員)

- ・アンケート結果の数字を全部ならずとA案という結果となるかと思うが、駅利用者は現在の10代の利用が大半だと思う。そう考えると、10代の結果が拮抗しているので、その点を加味して検討を進めた方がいいかと思う。

(木村委員長)

- ・町外は「B案」を多く選択していたので、利用者がだれかと考えた時に地域の人を考えるのは当然のことだが、他の利用者のことも考える必要があると思うと拮抗している。
- ・駅舎デザインは今後もう少し議論することとなるが、委員会としては「A案」で進めることでまとめたい。

4. その他

(柏谷委員)

- ・都市施設について荷捌きはあるが、西口広場のレイアウトと整合性をとっておく必要がある。次回の委員会では整合をとったほうがいい。

(倶知安町 植田主幹)

- ・次回の委員会は、2/28で再調整したいと思っている。5回目は3月に開催したいと思っている。

以上